

領域 8 インフォーマルミーティング議事録

開催日時：2019 年 9 月 12 日 12:30–13:30

開催場所：岐阜大学 (B12)

出席者

領域代表 (任期：2019/4–2020/3)

堀田 貴嗣 (首都大理)

領域副代表 (任期：2019/4–2020/3)

藤 秀樹 (神戸大理)

次期領域副代表 (任期：2019/4–2020/3)

楠瀬 博明 (明大理工)

次次期領域副代表 (任期：2019/4–2020/3)

石田 憲二 (京都大理)

領域運営委員 (任期：2018/10–2019/9)

大川 万里生 (東理大理)、辻 直人 (理研)、越智 正之 (阪大理)、

志村 恭通 (広島大先端物質科学)

領域運営委員 (任期：2019/4–2020/3)

谷口 晴香 (岩手大理工)、長谷川 巧 (広大院総合)、出村 郷志 (日大理工)、

三本 啓輔 (富山県立大工)、横山 淳 (茨城大理)

次期領域運営委員 (任期：2019/10–2020/9)

榊原 寛史 (鳥取大工)、松本 裕司 (富山大理)、大槻 太毅 (京大人環)、

(欠席) 竹森 那由多 (岡山大基礎研)

次次期領域運営委員 (任期：2020/4–2021/3)

山中 隆義 (東理大理工)、平井 大悟郎 (東大物性研)、町田 理 (理研 CEMS)、

光田 暁弘 (九大院理)、山田 武見 (東理大理工)

12:30 時点での出席者数：40 名程度 (上を含む)

議題

1. 第 74 回年次大会 (2019 年) 学生優秀発表賞 授賞式 (堀田)

応募 35 名、本審査 15 名から審査の結果、決定。

角田 峻太郎 氏 (京大理)、片岡 亨太 氏 (東大物性研)、山根 悠 氏 (広島大院先端物質)、鬼頭 俊介 氏 (明大院工) に賞状が授与された。

* 所属は講演時点のもの

2. 2019 年秋季大会まとめ（志村）

一般講演数は、例年の秋季大会よりもやや減。

| 一般講演数 | 口頭 | ポスター | 合計 |
|-------|-----|------|-----|
| 低温 | 182 | 128 | 310 |
| 磁性 | 79 | 85 | 164 |
| 全体 | 261 | 213 | 474 |

（注）プログラム編集時のデータ

過去の講演数：612 件（2016 秋、金沢大）、513 件（第 72 回、阪大）、512 件（2017 秋、岩手大）、442 件（第 73 回、東京理科大）、556 件（2018 秋、同志社大）、430 件（第 74 回、九州大）

領域 8 概要提出率：96.7 %（物性全体：94.1%）

プログラム編成の流れ

(1) シンポジウム

領域 8 主催のシンポジウム 2 件（単独 1 件、領域 7 との共催 1 件）

領域 8 が副の合同シンポジウム 1 件、チュートリアル講演 1 件（共に領域 4 主催）

主催シンポジウムについて、運営委員による順位付け（利益相反を考慮）の結果に基づき、高得点のものから優先的に開催日時を決定（今回は招待講演なし）

(2) 一般講演発表の編成

低温は計 15 セッション、磁性は計 7 セッション

磁性口頭は平行セッションを避けられ、最終日午後が空いた

低温、磁性のポスターセッションの時間帯にできるだけ低温、磁性それぞれの口頭セッションが重ならないように調整

低温のセッションを優先的に決めてもらい、空いたところに磁性が入るよう調整

すべて比較的広めの会場を割り当ててもらえた（93 人～296 人）

重複講演が（特に低温で）多く、運営委員内での情報共有と他領域との迅速な連絡が重要。領域内では重複講演の管理表を作成して管理した

合同セッションのマルチフェロイクスは今回は領域 8 主催で開催（領域 3 と合同）

(3) プログラム編成会議 (2019/6/7)

4名参加(現・次期の代表と副代表) → 軽微な修正、引き継ぎのみ

(4) プログラム校正

いつものように化学式の下付き、上付きなど修正

明らかに英語の内容らしい講演は英語講演として扱った(黒丸をつけた)

3. 領域委員会 (2019/5/21) 報告 (堀田)

報告事項

(1) 担当理事報告(平野 哲文 委員長、大槻 東巳 副委員長)

(2) 今期の領域正副代表の報告、次期領域運営委員の報告

審議事項

(1) 2019年秋季大会 招待・企画・チュートリアル講演、シンポジウム講演の採択

・招待講演: 7件採択(条件付含む)、0件不採択

・チュートリアル: 1件採択、0件不採択

・シンポジウム(一般): 11件採択(条件付含む)、0件不採択

・シンポジウム(共催): 1件採択

→ 領域8: 一般シンポジウム2件採択

(2) 若手奨励賞関係について

・若手奨励賞の授賞者、候補者の男女別人数の調査結果(領域別)について報告

・若手奨励賞の審査委員の報告のスケジュール

(3) 日本物理学会女性科学者賞(米沢富美子賞)の創設について

・勝元副会長より、同賞(米沢賞、米沢若手奨励賞)の創設の経緯や賞の詳細・大まかなスケジュールについて説明。募集等については各領域で対応する点を含め、大筋については各領域にて了解された

・その後、紆余曲折があり、日本物理学会米沢富美子記念賞(米沢賞)に一本化

・今年度から実施。領域8ではMLで案内済み(8月15日, [jps-f8 02496])。

(4) 学生優秀発表賞について

・「学生優秀発表賞の審査等により、運営委員やその他若手研究者の負担を増やしてしまっている現状について領域8より報告され、運営委員などに感謝状や賞状を学会から出してもらえないかという意見が挙げられた。」(議事録より抜粋)

(5) 各領域からの要望・意見交換

・大学の開催会場(大学)の選定に難航する傾向→学会の大会改革案の提示へ

・学会HPに掲載されている若手奨励賞受賞者一覧について、「対象論文(最大3件)」のほかに、研究タイトルを掲載してほしいとの意見。事務局で検討。

・領域委員会で配付している複数の資料をまとめてほしい。対応を検討。

(6) 事務局より

・「次世代人材育成プロジェクト」寄付パンフレットの配布、説明

4. 大会スケジュール等の改革案について (堀田)

1) 2020 年年次大会より冊子体プログラムの廃止

学会シンポジウム、講演の申し込みを2週間程度遅らせることができるようになります。

2) 2021 年年次大会より大会会場の有効活用

総合講演と並行して一般講演セッションも行い、かつセッションの講演数を増やし、ポスター会場を有効利用し、会場の部屋数を 3/4 にする。経費の節約とともに、会場の選定が容易になり、また現地実行委員の負担軽減にもつながります。

ご意見、コメントを、11月22日(金)までに、

領域代表・堀田貴嗣 Email: hotta@tmu.ac.jp

までお送りください。11月26日開催予定の領域委員会で報告します。

5. AAPPS の Division について (堀田)

Association of Asia Pacific Physical Society(AAPPS)

<http://www.aapps.org/main/>

AAPPS での取り纏め 横山順一氏、森初果氏

物理学会理事 石原純夫氏、野尻浩之氏(強磁場分野代表)

昨年、物理学会から各研究分野に Division 形成への興味について照会。物性関係では、強磁場、領域3の磁性、分子性固体関係から興味が示された。AAPPSの予算面で立ち上げ可能な新 Division 数は3つ程度。強磁場と磁性、強相関関係を含めて、Condensed Matter の Division 形成ではどうかという話に、国内の強磁場と領域3磁性関係で大凡纏まりつつある。領域3は、京大の中村先生が当面の担当。領域代表あるいは領域代表経験者が引き継いで行く方向。強磁場は、強磁場フォーラムから1名世話役を出す。

野尻先生から領域8への検討依頼(2019年4月16日)

AAPPSの下にCondensed MatterのDivisionを作ることについてどう考えるか?また、それを作る場合、強相関関係から取り纏め役の方を出して頂けるかどうか?そもそも、AAPPSやAPPCについてどの程度興味があり、ご協力頂けるか。

※APPC=Asia-Pacific Physics Conference

(質問) Divisionを作ると具体的に何があるのか

→ 現時点ではそこまではっきりしない。

各種賞に関しても領域で対応しており、負荷やコストも含めて検討する必要がある。

(コメント) 領域自体は団体ではないので、どのような形で関わるか考える必要あり。

6. 新・領域運営委員の紹介 (志村)

次期領域運営委員 (任期：2019/10－2020/9)

低温：竹森 那由多 氏 (岡山大基礎研)、大槻 太毅 氏 (京大人環)

磁性：榊原 寛史 氏 (鳥取大工)、松本 裕司 氏 (富山大理)

7. 次次期領域運営委員の推薦および承認 (志村)

(任期：2020/4－2021/3)

低温：山中 隆義 氏 (東理大理工)、平井 大悟郎 氏 (東大物性研)、町田 理 氏 (理研 CEMS)

磁性：光田 暁弘 氏 (九大院理)、山田 武見 氏 (東理大理工)

承認された。

8. 次次期領域副代表の推薦および承認 (志村)

(副代表任期：2021/4－2022/3)

(代表任期：2022/4－2023/3)

石田 憲二 氏 (京都大理)

承認された。

9. 学生優秀発表賞 領域 8 (第 75 回年次大会) 実施手順案について ~第一回の反省と第二回に向けて~ (藤)

* 運営委員 学生優秀発表賞担当：長谷川 巧 (広大院総合)

* 運営委員 学生優秀発表賞副担当：谷口 晴香 (岩手大理工)

非公開の実実施手順書については、直前の分科会におけるインフォーマルミーティングで領域運営委員に照会し、必要に応じて適宜修正する。実施手順書の中身に関する説明がなされた。以下は主に前回との変更点について。

選考委員は直前の分科会におけるインフォーマルミーティングにおいて決定する。

委員長は領域副代表とする。また当該年度の領域代表、領域副代表、領域次期副代表、領域次次期副代表の4名は必ず委員とし、残り4名程度を委員長が指名する。

(4名として運営委員代表、運営委員副代表、学生賞担当、学生賞副担当を予定しているが変更は可)

今回のインフォーマルミーティングで領域次次期副代表の承認をしたのはここで委員に含めることが理由。

授賞者人数 = 4名程度 (1名の増減は可能。学士、修士、博士の区別はなし)

スケジュール：

10月1日～10月15日 申し込み (ある程度完成された発表を想定しているため、早めの締め切りとする：今回の変更点)

10月下旬～11月下旬 事前審査 *プログラム編集の前には事前審査を終わらせる

12月下旬 事前審査結果決定・通知、本審査員割り当て

3月下旬 発表と本審査、最終候補者決定 (最終日午後)

9月分科会のインフォーマルミーティング冒頭 表彰式

応募書類の受付：専用アドレス (gmail) に応募書類を送付する、自動返信をもって正式な受理通知とする。また発表概要は今回は2ページまでとする (前は1ページだった)

事前審査：前は15名まで絞り込んだが、今回は8名まで絞り込むこととする。また審査委員は選考委員が兼ねる (領域代表・副・次期・次次期・運営代表・副+応募人数が多ければ運営委員から若干名)。

(議論)

審査のための概要提出が早い：最新の内容が発表しにくいように思える。受賞を狙って、過去の研究をまとめたような発表を想定して発表申し込みをすると、仮に事前審査で落ちた場合に発表のモチベーションが下がる恐れがある。学会の発表申し込みより前に事前審査結果を通知することはできないか。

→ 賞に応募するような発表者であれば、モチベーションが落ちるような問題はないのでは。

また応募者全員を本審査するのは現実的に難しいので、事前審査はどうしても必要。

賞に応募する発表でも最新の結果を盛り込んでよい。

多少は (賞を目指すか否かで) 発表のやりかたが変わる面もある。

本審査：審査委員は選考委員が兼ねる (領域代表・副・次期・次次期・運営代表・副・賞正担当・賞副担当)

(質問)

今後、実施手順書を変えるたびにインフォーマルミーティングで改訂という形になるか

→ そうなる

10. 低温国際会議 LT29 (2020 年 8 月) の準備状況の報告 (前野)

・ 会期：2020/8/15~22

・ 会場：北海道大学 (市民公開講座 8/15：中村 泰信 氏、高木 英典 氏)

・ HP は既に開設されている

・ 最近決まった主催・共催として、

日本学術会議の主催が決定された (9/10)

東大物性研、東北大金研、ATI 新世代研究所：共催となった

・ plenary, half plenary talks まで決定。これから invited, contributed talk を決める。

・ Invited & Contributed セッションのうちいくつかを、テーマを絞ったシンポジウム形式にする。

・ Invited (60 名) の推薦締め切り (一次) Nov.15, 2019 = ぜひ日本人の推薦を。

以上

(文責 越智)